



会員寄稿

ハイジと自由研究と私

～「探究」活動は何ででもできる～

教頭 網江 浩

今の季節と真逆の夏。夏と言えば「自由研究」。私は小学4年から中学3年まで毎年取り組んだ。人がやらないようなネタを探し、家の中にあるものや、スーパーマーケットでプラスチックの容器などをもらってきて実験をした。楽しかった。ちょっと頑張れば、結構な賞ももらえた。嬉しかった。その遺伝子はわが子に受け継がれ、息子も娘も中3まで自由研究をした。「今年も頑張る。優秀賞はもういらん、特別賞がほしい！」動機はともかく、理科に親しんでくれるならと思い、親子で自由研究に取り組んでいたのが懐かしい。

そんな私も中学卒業以降、自由研究らしきことはしていなかった。が、今から27年前、私が教員になって2年目の夏。テレビの中のあるものに目が留まった。「アルプスの少女ハイジ」だ。テーマソングに合わせて異様に長いブランコをこいでいる。私はレンタルビデオ屋に走った。このブランコ、確かに長い。画面で測定したところ、一往復するのに12秒。ロープの重さを無視して計算すると、このブランコの長さはおよそ36m。これは長い。しかし、この場合、ロープの重さを無視していいのだろうか？今度はホームセンターに走った。買ってたのは、直径16mmの麻ロープ。ブランコとしては手頃な太さだ。1mの重さは170g。片方36mなら、結び目を入れても12kg。そして、ハイジの体重を40kg前後と推定。12kgのロープの端に40kgのおもりをつけた振り子の周期は14秒。画面上の周期12秒に合わせて計算するとハイジのブランコの長さは27m。それでもブランコとしては異例の長さであり、落差も大きい。最も低い地点ではかなりのスピードが出ているはずだ。画面を静止させて測ってみたら、最も高く上がった地点で鉛直方向からの角度は70度もある。どう考えても、「こぎ過ぎ」である。落差18m。最高速度は6階の窓から飛び降りたのと同じ時速68kmにも達する。これは怖い。しかも、シートベルトもなく、頼りになるのはお尻の下の狭い横板と両腕だけ。さらによく見ると、足もとのはるか下界を教会の尖塔が行ったり来たりしている。どうやら100mぐらい上空で遊んでいるようだ。歌の中で「口笛はなぜ遠くまで聞こえるの」という素朴な疑問を漏らしているが、ヒバリやトンビの声がよく聞こえるように、障害物のない上空では地上より音が伝わりやすい。上空100mにおける時速68kmの振り子運動。常人ならとても耐えられないが、ハイジは天真爛漫に笑っている。恐るべき精神力だが、それより私が気になるのは、いったいどうやってこんなブランコに乗ったのかということ・・・。

こんなことを20台半ばの夏に真剣に考えた。まだまだ教員として駆け出しで、右も左も分からず教科指導に部活動に突っ走っている状態であったが、こんなことを考えたことが、私にとって一種の清涼剤であり、「探究」活動であった。あの頃に比べると、私の知的好奇心はどうなつたのだろう・・・歳は取りたくない。

「探究」と身構えると難しい。しかし、失敗しても、それも正解。何はともあれ、興味があることを行動に移してみるのが「探究」。大洲高校では、様々な場面で「探究」が行われている。これを生徒の皆さんが、自分の成長に生かさない手はない。

